

## 第41回(2024年度)助成者一覧表

### 【研究助成】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
工 学	1	内山 晴貴	名古屋大学大学院 工学研究科 助教	電子工学	電析技術を用いた原子層半導体デバイスのダメージレス電極形成	原子層半導体にダメージレスで電極を形成する「超低エネルギー」電析プロセスの確立を目的とする。清浄な半導体/電極界面を実現することで、次世代半導体デバイスの性能向上と低消費電力化に貢献する。低抵抗コンタクトかつフェルミ準位ピンニングのない原子層半導体-金属電極の界面形成を目指し、原子層半導体への「超低エネルギー」電極形成プロセスを確立する。	1年
	2	河内 裕一	名古屋大学大学院 工学研究科 総合エネルギー工学専攻 助教	電気電子工学、 エネルギー工学、核融合工 学	核融合プラズマにおける、マルチ物理量計測と条件付き抽出及びガウス過程回帰を組み合わせた3次元ベクトル場デジタルツインの実現	核融合プラズマ内部の物理現象の理解に重要な、3次元電場ベクトル及び磁場ベクトルと、これらの微分量(例えば電流ベクトル)を観測するために、複数の物理量(電場ベクトル・磁場ベクトル)を同時計測可能なマルチ物理量計測プローブを開発する。さらに、マルチ物理量計測プローブでは1回の放電で計測できない方向の物理量との同時分布を再構成するために、条件付き抽出法及びガウス過程回帰を組み合わせた新規データ解析手法を開発する。そして、複数の放電で得られたデータを元に、3次元電場ベクトル及び磁場ベクトルの時空間構造を再構成し、核融合プラズマデジタルツインを実現する。	2027年度
	3	Kim Jeonghyun	名古屋大学大学院 工学研究科 助教	バイオメカニクス、生体医工 学	骨形成促進に向けた静水圧負荷装置の開発	骨細胞はメカノセンシング細胞として機械刺激を感知し骨代謝を調整する。これまで展開してきた3次元骨細胞スフェロイドにおいて、周期的な静水圧を負荷できる新たな実験系を開発し、静水圧刺激によりスフェロイド内組織の石灰化誘導することを目的とする。より生理的な値だと考えられる周期的静水圧(Cyclic hydrostatic pressure)を負荷できる静水圧負荷実験系を開発する	研究実施後1年
	4	小寺 紗千子	名古屋工業大学大学院 工学研究科 工学専攻 電気電子プログラム 准教授	生体電磁工学	新規無線通信システムからの防護に関する安全性評価技術の開発	主に遷移周波数帯に着目し、大規模な電磁界・熱の複合物理数値解析により吸収電力密度と温度上昇との関連性について、個々人の形状や組織構成によるばらつきについて明らかにすることを目的とする。特に、新規提案指標に対し、標準値およびばらつきを考慮に入れた温度上昇を定量化することで、国際ガイドラインの策定に寄与できる知見を提供することを最終目標とする。	2026年度
	5	金子 栄樹	名古屋工業大学大学院 工学研究科 工学専攻 機械工学プログラム 助教	計算科学、情報工学	Flapping Wing Micro Air Vehicleの飛行シミュレータの開発	先進的な流体構造連成 (Fluid-structure interaction: FSI) 解析手法により Flapping Wing Micro Air Vehicle (FWMAV) が自由に飛び回るシミュレーションを実現する。そして、Deep Neural Network (DNN) によって構成される知的制御を考え、開発したシミュレーション環境上で深層強化学習を行うことで、最適な飛行戦略を獲得する。	2026年12月
	6	山田 格	名古屋工業大学大学院 工学研究科 工学専攻 機械工学プログラム 助教	機械工学	可視光および近赤外光による水ベース磁性流体の凍結現象の可視化に関する実験的研究	水ベース磁性流体の凍結メカニズムを解明することを目的とし、これを実現するため、A)可視光による磁性ナノ流体の1次元凍結・融解可視化実験の実施、B)Aのデータを用いた界面進行および粒子挙動の凍結・融解に対する影響の調査、C)近赤外光による磁性ナノ流体の1次元凍結・融解可視化実験の実施、D)Cのデータを用いた凍結・融解中の温度場解析、を実施する。	2024年12月
	7	田岡 紀之	愛知工業大学 工学部 電気学科 教授	電子工学	脳型コンピューティングに向けた金属/強誘電性Hf系酸化物/金属メモリデバイスにおける界面欠陥密度の定量化とその低減プロセス開発	不活性雰囲気中の窒素、酸化雰囲気中の希釈酸素、還元性雰囲気中の希釈水素を用いて、金属/Hf系酸化物界面の構造制御を試み、界面欠陥量がどの様に変化するかに明らかにする。これらのプロセスを通して、界面欠陥密度を低減し、信頼性の高い金属/強誘電性Hf系酸化物/金属構造を形成し、脳型コンピューティング機能のLSI混載実現を目指す。	2026年12月
	8	山本 貴史	愛知工業大学 情報科学部 情報科学科 教授	ロボティクス	多体ロボットに対する遠隔制御システムの開発	携帯端末を介したユーザ指示に基づき、複数のロボットが連携してタスクを遂行する場面において、人が多数で遠隔地から協調作業を行う際の対話や画面共有を用いたコミュニケーション手段を模倣し、それをユーザ、各ロボット同士の間で適用する。ユーザが多体ロボットを簡単かつ直感的に制御できる親和性の高い遠隔制御システムを開発する。	2028年度より実証実験を開始
	9	清水 隆宏	愛知工業大学 工学部 建築学科 准教授	建築史	建築文化遺産としての近現代建築の適正評価を行うための指標作成とその周知に関する実践的研究	近現代建築の建築文化遺産としての価値を適正評価するための指針を明らかにする。評価が一般化していない近現代建築を対象事例として、様々な関連する史資料の分析や利用経験者による記憶をシビックプライドとして活用する等の手法を検討し、対象建築固有の建築史的価値の定め方及びそれを一般市民への理解へ繋げる効果的方法の検証を行う。	2年
	10	古川 裕之	名城大学 理工学部 機械工学科 教授	流体工学	カーボンニュートラルを目指したテイラー渦流れによる光合成促進機構の解明に関する研究	二重円筒間に生ずるテイラー渦流れを用いることにより、3次元流場を生成することにより優しい流れで葉緑体を攪拌することで、光合成の効率を向上させることを目的とする。・テイラー渦発生装置の製作および性能試験 ・実際にテイラー渦流れによって光合成が促進されることを立証し、より高効率にするための工夫を試みる。	2026年10月ごろ
	11	屠 芸豪	中部大学 工学部 情報工学科 助教	知能情報学, 社会情報学	深層学習と画像データを活用した自治体業務支援システムの構築と実践	産官学連携により深層学習と画像データを利活用し、自治体業務(画像オープンデータ推進、地域観光推進)の支援システムを構築する。また、自治体業務での実証実験等を通じて自治体における効果や影響の検証を目的とする。更に、効果的な実践例を創出することで自治体における情報通信技術(ICT)とデータの利活用を推進する。加えて、関連技術とデータ利活用に関する理解を深め、自治体職員が提案をして継続的に利用できる仕組みを構築する。	2026年12月
	12	川ノ上 帆	中部大学 理工学部 数理物理サイエンス学科 准教授	数学	正標数におけるフックス型微分方程式について	フックス型微分方程式の解の構造定理を任意の階数のフックス型微分方程式に拡張して完全に解決することを目的とする。従来にはない切り口からの解の記述が与えられ、正標数の微分方程式論に新たな展望を開く結果となる。特に冪級数論と微分ガロア理論への応用が見込まれる。	2025年度

【 研究助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
工 学	13	岡本 俊哉	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 機械工学系 助教	機械工学、マイクロ・ナノ工 学	メソポーラス金属を修飾した機能化AFMプローブによる 単一細胞のナノ加工・解析	メソポーラス金属を表面に修飾した機能化AFMプローブの開発による超高感度局所ラマン分光分析ならびに低侵襲細胞膜穿孔技術 の実現を目的とする。先端増強、表面増強の両方の増強効果による超高感度ラマン分光分析の実現が期待できる。高感度化できれ ば、より微量な物質を検出できるほか、分析にかかる時間を短縮でき、より広範囲の分析や、低侵襲な分析が実現できる。	2025年度中
	14	田村 秀希	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 情報・知能工学系 助教	認知科学, 視覚科学, ヒュー マンロボットインタラクション	自由な身体運動時のヒト表情認知特性の解明と自律型 モビリティの印象操作技術への応用	本研究では、①自由に身体運動可能なときのヒトの表情認知特性を解明し、②その知見をヒトが自律型モビリティと関わる際の印象操 作技術へと展開する。これらから、ヒトに対してより好意的な印象を与える自律型モビリティを通じて、将来のヒト対モビリティの交通安 全リスクの低減を目指す。	2026年3月
	15	河合 繁	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 応用化学・生命工学系 特任助教	分子遺伝学、生化学	網羅的分子系統解析による光合成集光タンパク質の機 能解明	シアノバクテリアの機能未知フィコビリタンパク質の性状の解明を通じて、シアノバクテリアの光合成機能の向上を可能とする新しい技 術を開発することを目的とする。シアノバクテリア以外の生物の有するフィコビリタンパク質の機能解析により、より幅広い光合成微生 物の光エネルギー利用効率の向上と、それを用いたバイオマス生産の応用研究の発展に貢献できる。	
	16	小林 邦和	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 教授	情報科学	個性を有す分人型エージェントを用いたマルチエー ジェント環境における非一様な協調行動の創発	マルチエージェント環境において、エージェントに個性を持たせることで、画一的でなく非一様な協調行動が創発されることを明らかに する。その中で、既に提案している個性を持つ分人型エージェントモデルの改良を行う。ホームロボットは、人間に寄り添うパートナーロ ボットに変貌していることが大いに期待される。	2025年度
	17	小畑 建太	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 准教授	地球観測学	地球観測衛星による時系列反射率画像データ調和アル ゴリズムの開発と評価	複数の人工衛星センサが観測した時系列反射率画像データを、仮想的な一つのセンサネットワークが観測した時系列反射率画像 データに変換するためのアルゴリズムを開発し、均一かつ安定したデータを用いた陸域植生の時空間変動解析精度向上への貢献を 目指す。本研究で提案するアルゴリズムは、多数の地球観測センサを用いた反射率データの均一性向上に対して十分貢献することが 期待できる。	1年～5年
医 学	18	平岩 宏章	名古屋大学 医学部付属病院 循環器内科 病院助教	循環器学および画像医学	心不全におけるX線動態画像を用いた心機能および血 行動態・予後予測モデルの開発 ～新規低侵襲的アプローチによる新しい心不全治療法 を目指して～	心不全患者に対して胸部X線動態撮影を行うことで、これまでにない新しい低侵襲的な心機能および血行動態評価法の開発を目的と している。胸部X線動態撮影画像から心不全患者の心機能および血行動態を予測するモデルを開発し、検証した後、最終的には社会 実装を目指している。実臨床で応用されるようになれば、初期心不全の発見や、重症心不全患者群の特定、また、慢性心不全増悪の 早期発見が可能となる可能性を秘めており、新しい心不全治療へ繋げることを目指す。	2026年年度
	19	村岡 彩子	名古屋大学 医学部付属病院 産婦人科 総合周産期母子医療センター 助教	生殖医学、細胞外小胞、網 羅的遺伝子発現解析	子宮内膜症患者における血清中細胞外小胞内含有 small RNAを用いた術後再発予測アルゴリズムの創出	子宮内膜症患者における血清中細胞外小胞 (EV) 内含有 small RNA を用いた術後再発予測アルゴリズムの創出 血清中EV内含有核酸はその安定性と細胞間情報伝達ツールとしての確立された役割から広く研究されており、測定可能なバイオマ ーカーとしての役割も担う。子宮内膜症患者にこの技術を応用し、術後の再発を予測できる生体マーカーとして、またその機能解析まで 含めた子宮内膜症に対するEV内含有核酸の及ぼす影響を検証する。	2年以内
	20	佐藤 由香	名古屋大学 医学部付属病院 腎臓内科 病院助教	医学	腎不全による老化促進機序の解明	新規老化促進マウスの代謝網羅的解析の結果、腎が担うべき糖新生が腎不全で低下する結果、低インスリン血症と肝臓の代謝異常 により、骨格筋と心臓の筋肉へのエネルギー基質の供給不足が起きていることが見出された。腎臓を「代謝臓器」として捉え、CKDが 全身の代謝変容を介して他臓器・器官の老化を進行させることを示す。さらに、見出した病態が広く高齢者に関係するか探求し、腎の 糖新生低下をもたらす腎尿細管細胞の老化が全身の「脆弱性」に寄与し、生物学的年齢を進行させる機序ではないか、検証する。	3年
	21	神農 英雄	名古屋市立大学大学院 医学研究科 (新生児・小児医学分野) 助教	新生児学、神経科学、 神経再生	ヒト新生児脳にそなわる白質傷害後の再生メカニズム の解明と治療への応用	・ヒト新生児脳がもつ傷害後の白質再生能力を、脳室下帯に着目して明らかにする。 ・ヒト新生児と同等の脳構造をもつ新生仔ブタの脳傷害モデルを用いて、新生児脳傷害後に特徴的な白質再生メカニズムを解明す る。 新生児脳傷害の治療戦略の実現化に大きく近づき、新生児学・神経科学分野の科学的な発展のみならず、こどもたちの未来を守るこ とに寄与できる点でも社会的意義が大きい。	2025年度
	22	眞鍋 達也	名古屋市立大学大学院 医学研究科 脳神経科学研究所 認知症科学分野 特任助教	神経病態学	ヒト化タウノックインマウスを用いたアルツハイマー病に おける血中リン酸化タウ蓄積の解明	前臨床状態ADのマウスモデルから異なる月齢にて採取した血漿・脳脊髄液中のリン酸化タウ濃度を測定し、当該モデルの妥当性の 検証と血中でのリン酸化タウ蓄積の機序を解明する。加齢依存的なリン酸化タウと総タウの増加をもたらす、この変化は脳内における 老人斑密度と強い相関関係にあるはずである。	2026年6月
	23	堀田 祐志	名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬理学 准教授	男性性機能障害、薬理学	難治性勃起不全に対する新規治療を目指した光応答性 GC活性化剤の開発	光応答性GC活性化剤の開発とED治療への応用を明らかにすることを目的とし、3点の実施を行う。 1. 光応答性GC活性化剤の開発 2. 正常ラットを用いた光応答性GC活性化剤の勃起機能増強効果の検討 3. EDラットを用いた光応答性GC活性化剤の勃起機能増強効果の検討	2026年12月
24	田中 守	名古屋市立大学大学院 医学研究科 消化器・代謝内科学 助教	医学 消化器内科学 レー ザー医学	高性能近赤外レーザー装置を用いた次世代の光線力 学療法の開発	組織透過性の向上を目指すべく、これまでのクロリン誘導体 (660nm) ではなく、より長波長領域に吸光係数のピークを持つバクテリオ クロリン (700nm以上) に「糖」を連結した新たな光感受性物質を開発し、強力で低侵襲な次世代PDTの開発を目指す。現在増加傾向で ある末梢肺癌に対する腫瘍選択性、集積性の高い次世代PDT開発は、市場も大きく期待は大きい。	1年6カ月	

【 研究助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
医 学	25	海野 怜	名古屋市立大学大学院 医学研究科 腎・泌尿器科学分野 助教	泌尿器科学 分子細胞学	Spatial single-cell RNA sequenceによるオートファジー 依存型尿路結石抑制遺伝子の同定	一連のオートファジー経路に多種のシグナルやタンパクが関与することに着目し、結石形成の抑制にのみ関わるオートファジー関連遺伝子(オートファジー依存型結石抑制遺伝子)を同定し、同遺伝子の制御により、全身におけるオートファジーに影響をあたえることなく、結石形成のみを特異的に抑制する治療薬の開発が可能ではないかと考えた。細胞保護作用に着目した、新規バイオマーカーや治療薬の開発は、これまでの尿路結石学にはなかった概念であり、これからの研究・治療法を根本から変える可能性がある。	2年
	26	服部 勇介	名古屋市立大学大学院 医学研究科 整形外科 病院助教	基礎医学	線維化と炎症カスケードに注目した手根管症候群の新たな保存的治療法の開発	手根管症候群の正中神経周辺組織における線維化をin vitroの培養系で再現することにより、病態解明とさらに新規薬物治療法を導くことを目的とする。線維化を進行させる炎症性サイトカインや血管新生因子の制御、さらに特発性肺線維症に対する抗線維化治療薬であるニンテダニブ、ピルフェニドンなどの薬剤を用いて手根管症候群における線維化抑制機序を明らかにする。	2年
	27	永沢 亮	愛知医科大学 医学部 感染・免疫学講座 助教	細菌学	レンサ球菌の薬剤耐性化・高病原化を助長する原因の究明	口腔レンサ球菌の一種であるStreptococcus mutansを用いて、形質転換能のON/OFFをリアルタイムに検出可能なレポーター株を作製し、下記2つのことを明らかにする。 ・どのような環境要因がレンサ球菌の形質転換能を誘導するのか ・菌株間で形質転換能に差異が生じる原因は何か	2年6カ月
	28	伊藤 誠	愛知医科大学 医学部 放射線医学講座 講師	放射線腫瘍学	リアルワールドデータを用いた高リスク前立腺がん克服のための新たな標準治療の開発	高リスク前立腺がんの症例を全国から集積するための、疾患登録システム(レジストリ)を開発する。ハイパーサーミア(HT)と放射線治療(RT)を併用して治療する症例を登録し、リアルワールドデータを構築する。研究期間内において解析に足るデータ数を集積し、まず実行可能性と急性期毒性を明らかにする。	2029年度
	29	橋本 哲也	藤田医科大学 医学部 脳卒中科 臨床准教授	脳卒中医学	脳血管内治療の回収血栓を対象とした分子病理解析による新規個別化脳梗塞治療法の開発	免疫染色を応用した病理学的解析により脳血管内治療回収血栓の分子病理学的特性を解明し、新規の革新的な脳梗塞治療法を開発する。 脳血管内治療の回収血栓を対象とした分子病理解析による新規個別化脳梗塞治療法の開発のために、回収血栓の新たな分子病理学的解析手法を開発して回収血栓の分子病理学的特性を解明し、臨床背景・効果的な血栓回収療法の治療戦略・病態評価に応じた有効な脳梗塞再発予防の治療戦略との関連を解明する。さらに、本研究の方法論を基盤として、本邦の多施設参加型の症例登録データベースを作成し、大規模研究へと進む環境基盤を作る。それにより脳梗塞診療を革新し、脳梗塞の転帰改善を目指す。	3年程度
	30	和知野 純一	藤田医科大学 医療科学部 医療検査学科 教授	微生物学、感染症学、 構造生物学、有機化学	膜透過性改善に志向した革新的細菌感染症治療薬の開発研究	薬剤耐性菌感染症を克服するための新たな抗菌薬の開発や治療法の樹立が喫緊の課題となっている。薬剤耐性菌感染症に有効な新しい治療ツールとして、薬剤耐性阻害剤を創製する。物質の膜透過性改善に志向した新たな薬剤耐性阻害剤の創出を目指す。新たな感染症創薬の機会の創出にも繋がる。	2年程度
	31	福田 尚代	愛知学院大学 歯学部 生化学講座 講師	細胞生物学、分子生物学、 機能生物化学	繫留因子exocystによる膜融合制御機構の解明	これまでに確立したゲノム編集による内在性exocystサブユニットのライブセルイメージング解析法に加えて、新たに立ち上げた標的遺伝子特異的な薬剤誘導性ノックダウン法および生物発光を用いた新規の開口分泌測定系を駆使することで、exocyst部分複合体による開口分泌促進の分子機構を明らかにすることを目的とする。	2026年度
32	小菅 愛加	愛知淑徳大学 健康医療科学部 医療貢献学科 臨床検査学専攻 助教	神経化学、神経免疫学	ストレスが惹起するCXCL7に着目したうつ病病態メカニズムの解明	高ストレス社会の進行に伴ううつ病患者の増加は、重大な社会問題であり克服すべき喫緊の課題である。炎症性ケモカインCXCL7に着目し、当該分子が末梢免疫細胞を誘導し、血液脳関門破壊を惹起、うつ病病態形成に関与するか明らかにする。さらに、CXCL7がうつ病の新規治療標的や診断バイオマーカーとなり得るかも検討する。	2025年6月	
経 済 ・ 経 営 ・ 法 学	33	金 健輝	名古屋大学 経済学部・経済学研究科 講師	国際経済	規制非関税措置 (NTM)	輸入業者によって課される NTM に起因する追加負担に焦点を当てます。NTM は手続きコストやコンプライアンスコストを負担することにより、一部の輸出企業の競争力を阻害し、その結果、貿易の流れを妨げ、最終的には国民の福祉を低下させる可能性があります。NTM サブグループの相違を区別するために、各 SPS 尺度および TBT の規制構造における異質性を構築します。	2025年9月
	34	SUKHBAATA R MOLOM	名古屋大学大学院 法学研究科 研究員	法学(環境法・国際私法)	モンゴルにおける環境汚染の国際的側面に関する抵触法的検討	被害者や環境団体が直接外国企業に対し訴えを提起した事例を念頭に、①モンゴルの裁判所がどのような場合に紛争を審理すべきかという国際裁判管轄の問題、②どの国の法に従って判断すべきかという準拠法選択の問題、さらに、③外国の環境団体が環境公益民事訴訟を利用できるかという抵触法上の問題について検討を行い、必要に応じて立法提言を行う。	
	35	小山 佳枝	中京大学 総合政策学部 教授	国際法	水中文化遺産の保護および保全をめぐる国際法制度の展開	先進諸国の消極的姿勢の原因を探るべく、ユネスコ条約の択に至るまでの起草過程、他の諸条約との関係、また日本を含め関連する国家実行等を詳細に分析することにより、ユネスコ条約の抱える解釈および適用上の問題点と課題を明らかにする。これにより、最終的に同条約が現代および将来の国際海洋秩序の展開に及ぼすイムパクトについて示唆を得ることを目的とする。	2026年12月
	36	荒井 智行	南山大学 経済学部 経済学科 教授	経済学史・経済思想史	18・19世紀のイギリス経済学史・経済思想史	イギリス東インド会社のインド政策が影響を与えたとされるマルサス経済学の特質とその構造について、経済学の方法論の観点から明らかにすることを目的としている。アーサー・ヤングの経済思想を手がかりにしながら、東インド会社のインド政策との関わりで経済学の制度化の特徴を示す。それは、アダム・スミス以後の経済学の展開において、東インド会社がいかなる意味と意義を有するのかを明らかにしようとする試みである。	2026年8月

【 研究助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
経済・経営・法学	37	川北 真紀子	南山大学 経営学部 教授	経営学	企業の社会貢献とパブリック・リレーションズ:企業理念と社会貢献との関係に着目して	企業の社会貢献活動(地域貢献や芸術支援)が、ステークホルダーとの関係をいかに構築だけでなく、多様な経営資源に影響をあたえることが予想される。企業の経営理念と密接に関係が実際にどのような効果が見られるのかについて検討する。	2026年～2027年
	38	打田 委千弘	愛知大学 経済学部 教授	応用計量経済学	「地域経済の持続的な発展と事業承継:沖縄県における中小企業を事例にして」	地縁・血縁に基づく拡大家族が社会的なアイデンティティを形成している沖縄において、Aghion and Tirole(1997)の理論仮説(不完備契約下での権限移譲モデル)などを用いて、親族内承継や従業員承継、第三者承継(M&A)など沖縄県における事業承継のあり方について調査研究する。	2025年
	39	田子 晃	愛知大学 経営学部 会計ファイナンス学科 教授	会計学・ファイナンス	投資家の意思決定に用いられている評価モデルに基づいたあるべき財務情報の研究	情報利用者を財務情報の主な利用者である投資家に絞り、日本の会計基準・IFRS等の制度会計上での様な財務情報が投資家の利用目的に適合した情報であるかの提言を行うために、投資家がどのような評価モデルに基づき財務情報を利用しているのかについて調査・研究する。	2026年12月
	40	吉垣 実	愛知大学 法学部 教授	民事法学	民事訴訟法・民事執行法・民事保全法の改正についての検討(民事裁判のIT化を踏まえて)	「民事訴訟法・民事執行法・民事保全法の改正についての検討:民事裁判のIT化を踏まえて」 【第1テーマ】アメリカ民事保全法(暫定的救済)の検討(会社関係訴訟が中心となる) 【第2テーマ】差押禁止債権の範囲変更についての検討を行う	2026年3月
芸術	41	金子 智太郎	愛知県立芸術大学 美術学部 芸術学専攻 准教授	美学	境界を問う芸術——1970年代の日本美術を中心とする制度批判的実践の再検討	主に1970年代の日本美術に関する一次資料調査にもとづき、芸術と社会の諸制度をめぐる問いかけがこめられた実践のありかたを再検討する。また、同時代の言説を分析し、こうした実践の戦後日本美術史における位置づけを考え直す。60年代の反芸術やもの派、80年代の美術回帰やポストモダニズムと比べて、いまだに研究が進んでいない70年代の日本美術、特に70年代前半の作品に注目し、その固有の意義や展開の詳細、同時代の諸芸術との結びつきを明らかにする。	2025年度
	42	岡田 智則	愛知県立芸術大学大学院 博士後期課程音楽専攻作曲分野 博士後期課程2年	音楽・現代音楽作曲	「アークスモニウム」の実演プロセスから見出せる、ピエール・ブーレーズ作曲《二重の影の対話》に含まれる音響効果についての研究、および現代音楽における「アークスモニウム」の新たな活用方法について	ピエール・ブーレーズ作曲の《二重の影の対話》に記譜された音響操作の指示と、「アークスモニウム」の音響操作方法をそれぞれ分析し、両者における同一要素の立証を目的とする。多数のスピーカーを用いて音響表現を可能にする「アークスモニウム」の新たな活用方法を見出す。	2024年12月
	43	向井 由衣子	愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科 音楽専攻作曲領域 博士後期課程2年	音楽(作曲)	非西洋の音楽的時間概念から着想を得た西洋現代音楽作品における新たな作曲手法の提示	フィンランドの作曲家ユッカ・ティエンスー Jukka Tiensuu (1948-) の作品について音楽的分析を行い、作品に用いられている技法や作曲様式を明らかにした上で、西洋現代音楽作品における時間構造の新たな作曲手法を提示する。	2026年3月
	44	齋藤 勇介	愛知県立芸術大学 美術研究科 博士前期課程彫刻領域 博士前期課程2年	彫刻・アートパフォーマンス	「火と彫刻とヒト」の関わりを創出する新たな彫刻の可能性を模索する。	縄文土器や土偶、仏像といった日本古来の造形表現を自身の作品に取り入れ、日本彫刻の美の再発見を目指す。また、我々人間と深い関わりを持つ「火」の力に注目し、人と物体に与える火の作用を作品に組み込み、彫刻と鑑賞者との間に関係性を見出す現代彫刻の新たな可能性を模索する。	2年間
	45	山上 千乃	愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科博士前期課程 音楽専攻音楽学領域 博士前期課程2年	音楽学	尾張万歳(おわりまんざい)の発展における音楽構造の変化ー録音資料の分析を通して	大正・昭和期の尾張万歳のレコードから詞の書き起こしと台詞の抑揚を含めた音の採譜を行い、音楽構造の分析をする。これらを通して尾張万歳の当時の実演を再現し、尾張万歳における音楽の役割について考察し、尾張万歳の歴史的意義を明らかにする。	2026年12月

【 海外派遣助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期	
工 学	46	安部 功二	名古屋工業大学大学院 工学研究科 工学専攻 電気電子プログラム 准教授	電子材料工学	金属水酸化物の電気伝導性の制御ー水の電気分解用 電極への応用ー	フランスで開催される国際会議European Materials Research Society spring meeting 2025で研究発表を行い、再生可能エネルギー応 用に関連した薄膜の作製および特性についての情報収集および意見交換を行う。	フランス	2025年5月26日～ 5月30日
	47	岩本 悠宏	名古屋工業大学大学院 工学研究科 工学専攻 機械工学プログラム 准教授	熱流体工学	感温性磁性流体を用いたポンプレス熱輸送デバイスの 開発	アメリカ合衆国で開催される国際会議22nd International Symposium on AppliedElectromagnetics and Mechanics (East Lansing, Michigan, United States, 2025年11月)で研究発表を行い、感温性磁性流体の熱流動に関する情報収集および意見交換を行う。	アメリカ	2025年11月中
	48	北川 一敬	愛知工業大学 工学部 機械学科 教授	流体工学, 衝撃波工学, 航 空宇宙工学	縦列配置円柱を通過する衝撃波の衝突干渉時の圧力 低減効果に関する研究	オーストラリア国ブリスベンで開催される第35回国際衝撃波シンポジウム(International Symposium on Shock Waves, ISSW35)で研究発表を行い、衝撃波工学, 安全工学, 航空宇宙工学について、情報収集及び意見交換 を行う。	オーストラリ ア	2025年7～8月頃
	49	佐藤 優真	名城大学大学院 理工学研究科 交通機械工学専攻 大学院生	航空宇宙工学	現実的な電力制約を考慮した超小型人工衛星の自動ス ケジューリング手法	オーストラリア国ブリスベンで開催される第35回国際衝撃波シンポジウム(International Symposium on Shock Waves, ISSW35)で研究発表を行い、衝撃波工学, 安全工学, 航空宇宙工学について、情報収集及び意見交換 を行う。	イタリア	2024年10月
	50	山田 凌矢	名城大学大学院 理工学研究科 材料機能工学専攻 大学院生	電子工学	AlGaN系紫外線レーザーに関する結晶成長技術および そのデバイスプロセスに関する研究	収率の低下・内部ロスの増大要因だと考えられるヒロックの低減により、さらなる高出力化に貢献する優れた研究結果であることから、 窒化物半導体で最も重要な国際会議であるIWN2024で発表することを希望している。	アメリカ	2024年11月
	51	山岸 綾	中部大学 工学部 建築学科 准教授	建築空間論、都市研究	国際芸術祭と都市・地域、およびコンバージョン建築に よる都市・地域再生	バルセロナ(スペイン)の工業地区ポブレノウにおいて、工場等のコンバージョンにより生まれた芸術・文化施設群とそのネットワークに ついて、現地調査を行う。	スペイン	2026年2月～3月
	52	山崎 勝也	中部大学 理工学部 数理・物理サイエンス学科 准教授	宇宙線物理学	北半球最大の最高エネルギー宇宙線観測施設テレス コープアレイ実験の観測運営、およびその観測データを 用いた最高エネルギー宇宙線起源の解明	アメリカ合衆国ユタ州で稼働している北半球最大の最高エネルギー宇宙線観測実験、テレスコープアレイ実験の観測サイトにて、大気 蛍光望遠鏡および地表粒子検出器の観測運用およびメンテナンスを実施する。これと並行して、次世代実験のプロトタイプとして開発 を進めているCRAFTT実験の試験観測を実施する。 さらに、現地管理を担当しているユタ大学の共同研究者と会談し、今後の実験運営について議論する。	アメリカ	2025年8月～9月
	53	高橋 淳二	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 機械工学系 准教授	ロボット工学	円筒パノラマ画像をテンプレートする Panorama-VGM の開発と軽量自律移動ロボットへの適用	アラブ首長国連邦で開催される国際会議 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems. (IROS2024)にて、 “Accurate and Scalable Panorama Visual-Geometric-Matching based Localization System for Robot Navigation” についての研究発 表を行い、自律移動ロボットの位置推定やナビゲーションに関する研究の情報収集および意見交換を行う。	アラブ首長 国連邦	2024年10月
54	芦野 公祐	愛知県立大学大学院 情報科学研究科 博士前期課程 システム科学専攻	情報科学, 医用画像処理, 計算機支援診断	深層学習におけるCT画像の仮想展開入力による人体 の大域構造の自動認識に関する研究	米国で開催されるSPIE(国際工学会)の医用画像分野の会議であるSPIE Medical Imagingで、仮想展開画像入力型深層学習ネット ワークによる3次元体組成解析について研究発表を行う。当学術会議では、Harvard Medical Schoolのような学術臨床面だけでなく、 GE HealthCareなどの実用の観点の知見を持つ専門家とディスカッションを行う。そして、その成果を、IEEE EMBCやMICCAI, RSNAの ようなトップカンファレンスにおける発表や、論文文化につなげる。	アメリカ	2025年2月16日～ 2月20日	
医 学	55	田中 里奈子	名古屋大学 医学部附属病院 特任助教	神経精神薬理学	統合失調症モデルマウスを用いた統合失調症新規治療薬候 補Rhoキナーゼ2選択的阻害剤の認知機能障害に対する効果 の検討	米国、シカゴ開催される国際会議Neuroscience 2024 (北米神経科学学会)で研究発表を行い、神経科学分野特に、統合失調症の病 態解明及び治療薬開発の情報収集及び意見交換を行う。	アメリカ	2024年10月5日～ 10月9日
	56	河瀬 健吾	名古屋市立大学大学院 医学研究科 腎・泌尿器科学分野 病院助教	泌尿器科学、尿路結石、内 視鏡治療	内視鏡による尿管碎石術によって生じた尿管狭窄の形成機 序の解明	アメリカ合衆国で開催される国際会議 World Congress of Endourology and Uro-Technologyで研究発表を行い、尿管狭窄の形成機序 に関して情報収集および意見交換を行う。 World Congress of Endourology and Uro-Technologyは全世界の内視鏡治療を専門とする泌尿器科医が参加し、泌尿器内視鏡治療 に特化した国際会議である。そのため、他の学会では得ることのできない最新の知見とディスカッションによる新たな発見を得ることを 期待できる	アメリカ	2025年10月10日 ～ 10月13日
	57	福島 拓	愛知医科大学大学院 医学研究科基礎医学系 博士課程2年	筋生理学	エピゲノム修飾酵素PHF2による運動誘導性筋線維タイプ変 化機構の解明	アメリカで開催される国際会議“Cell Bio 2024”で研究発表を行い、筋生理学及び運動によるエピジェネティクス制御に関わる情報収 集、意見交換を行う。	アメリカ	12月13日～ 12月20日

【 海外派遣助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
経済・経営・法学	58	前田 大輝	中京大学 経済学部 経済学科 講師	マクロ経済学	研究開発を加味した内生成長モデルにおける金融政策の影響分析	イタリアのバーリ大学で開催される国際会議University of Bari Aldo Moro – Chukyo University Agreement Seminarで研究発表を行い、本研究の分析の妥当性や得られた結果について意見交換を行う。	イタリア 2024年11月 または3月
	59	寶多 康弘	南山大学 経済学部 経済学科 教授	国際経済学、環境・自然資源経済学	国の異質性を考慮した多国間での製品基準の相互承認	国際学会・ワークショップで研究発表を行うとともに、諸外国から参加する研究者との意見交換を通じて、研究成果をブラッシュアップする。また、国際学会・ワークショップに参加して、最新の研究動向も調査して、論文の改善に生かす。	イタリア 2024年10月31日 ～ 11月2日
	60	立石 直子	愛知大学 法学部 教授	民法(家族法)学	同性カップルにおける親子関係と法に関する調査研究	ハワイ州で当事者へのヒアリングや意見交換を実施し、また同性婚の制度化前後での法改正の動向について、現地で幅広い資料収集を行う。	アメリカ 2025年2月 または、3月
芸術	61	大崎 宣之	愛知県立芸術大学 美術学部 美術科 准教授	現代美術	経年変化する素材と組織模様をモチーフに、「不確かな世界とその未来の可能性」について思考する芸術作品の発表と研究	ドイツ、ハンブルク市で開催する展覧会(MIKIKO SATO GALLERY ハンブルク市/10月～11月開催予定)のために現地での制作とインスタレーションの設営をおこない、作品を発表する。また現代美術の状況を収集するため、世界で最も重要な国際美術展の一つであるベニスビエンナーレ(ベニス/イタリア)に訪れる。ハンブルク市での現代美術作家と交流や展示を通して様々な意見交換をおこない、国際展での情報収集も合わせて、国際的な視野を持った今後の研究と授業に反映させる。	ドイツ イタリア 2024年10月19日 ～ 11月11日

【 研究プロジェクト助成 】

部門	No	氏名	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマ	研究テーマの概略・手段・目的等	成果をおさめる時期
研究プロジェクト助成	62	愛知総合工科 高等学校	専攻科 専門科目指導者 岡村浩一	モデルベース開発(MBD)、 制御工学	実習教育を通じてMBD技術者の育成	低コスト化、短納期化、品質維持を目的に、MBDによる標準化を進め、国際競争力を向上する必要がある。そのため、高等学校専攻科教育においてMBD技術者を育成することが急務である。実習教育(ものづくり実習、競技大会参加、学会参加)を通じて、MATLAB/SIMULINKの基本操作から応用操作方法までを教育し、モデルベース開発手法を実践的に習得させることによりMBD技術者を育成できる。	2026年1月
	63	豊田工業 高等専門学校 (専攻科)	佐郷 幸法	ロボット工学、制御工学、情報工学	NHK学生ロボコンおよびABUロボコンに適用可能な高速・高精度位置決めを実現する高い搬送性能と耐久性を持つ自動搬送ロボット、およびRGB-DカメラやLiDARを用いた自動認識・自動走行システムの開発	比較的軽量で剛性と加工性が高いアルミ材料を主に利用した汎用性の高い搬送ロボットを構築する。また、頑丈で軽量の搬送ロボットにRGB-DカメラやLiDARを搭載し、AI技術も用いた自動認識・自動走行システムを構築する。	2025年9月～10月頃
	64	豊田工業 高等専門学校 (本科)	神永 真帆	工学	本科学生の卒業研究における、希少細胞に適用可能なマイクロ流路デバイスへの細胞均一導入手法の開発	バルーンアクチュエータを利用し、細胞均一導入時のみ流路を狭めその後流路をもとに戻すことで狭窄部に塞栓した細胞を回収することを考え、これにより、細胞の弾性を利用したランダム流生成と細胞通過率向上を両立する。	2025年6月